

十字架の奥義を知るとき（マタイ 26:6-13）

今日の聖書箇所では、ひとりの女性が高価な香油のつぼを持って来て、イエス様の頭に香油をすべて注ぎました。そのようにして、献身の意思を示したのですが、弟子たちは、それを見て、それを売れば貧しい人を助けられるのに浪費をしたと叱ります。そのとき、イエス様が、香油は埋葬のためのもので、福音が伝えられるところでは、その女性がしたことも語られるとほめられました。弟子たちとこの女性との違いはなんでしょうか。イエス様は、ご自分が十字架で死に、復活されることを、弟子たちやいろいろな人に語られていました。しかし、人々は信じようとせず、興味も持っていなかったのです。その中で、この女性だけがイエスの十字架の奥義を分かり、その結果として、香油を注いだのでした。

まず、私たちがメッセージとして受けるべきなのは、**イエスの十字架の奥義を知るなら、人のすべての動機はむなしくなる**ということです。人は心に傷があると、その傷が影響して、良い悪いを判断して、それが動機になって行動します。弟子たちが貧しい者を助けることを言いますが、そのような人助けや社会貢献をすることも、傷ゆえの動機です。十字架の奥義が分らないと、すべて動機によってすることになるのです。十字架の奥義とは、罪のない神の御子、つまり神様ご自身

が、罪人の代わりに身代わりとなって死んでくださるということです。その神様の法則を知るなら、いままでの価値基準はすべてむなしものとなり、すべての世の理論、主義、主張がなくなります。なにか守っても守らなくても、まったく関係ないのです。十字架の前に立つなら、常識も見えなくなります。人生をコントロールして引きずり回されていた心の傷が、十字架の前では意味なくなります。十字架の奥義の前では、ことばを失い、すべて消えます。過去にどんなことがあっても、十字架の奥義の前ではすべて消え、神様のあわれみと、無条件の愛だけが残ります。パウロは、その他のことはちりあくたと言いました（ピリピ3:8）。また、イエス・キリストのほかにはなにも知らないことに決心したと言いました（1コリント2:2）。十字架の奥義がわかると、すべてが崩れ落ちるのです。いろいろなことがあったとしても、十字架の前で、その一点に絞って立つための神様の導きです。十字架の前に立つと、人のすべてのことはむなしくなります。

そして、十字架の奥義の前に立つと、**感謝だけが残ります**。ダビデは、自分がとがある罪人だと告白し、神様のあわれみ、十字架のほかにはなにもないと感謝します（詩篇55:1）。パウロは、自分の死のからだと表現します（ロ-マ7:24）。私の代わりに死んでくださったこ

とは、感謝以外なくなるのです。頭の中のすべてを十字架を見上げる土台にしましょう。十字架の死と復活による、どんでん返しの勝利は、私たちの心の中からはじまります。心の傷や感情は、十字架を見上げる材料です。それ以外はありません。まことの感謝以外は残らなくなります。ここから、献身ができるようになるのです。

まことの献身は、利害関係や計算を超えて、心からの喜びをもって自分の人生すべてをささげるようになります。香油は、この女性にとっては、いのちのようなものでした。それをささげたのです。シドンのやもめは、飢饉で最後の食料をエリヤにささげ、その献身の結果、食料が絶えることなく与えられました。レプタ2つをささげたやもめは（マルコ12:41-44）は、自分のすべてをささげたといエ

ス様がほめられました。これが献身です。感謝と喜びで自分をささげることです。福音と福音宣教のための献身は、永遠の作品として残ります。今日の女性も、世界中に伝えられるようになりました。十字架の奥義の前に立ち、その奥義が分かるなら、このようになります。イエスをキリストと告白しても、この十字架の奥義がわからないと、人間的な動機から自由になれません。

十字架の奥義の前にすなおに立ち、自分のすべての動機から自由になり、福音宣教のためにどのように献身するか祈りましょう。神様はその祈りに必ず答えてくださいます。御座の祝福を約束として受け、237を見て進む、献身の人生を歩むようになることを祈ります。

1部-マタ 26:6-13 十字架の奥義を知るとき
なるほど/十字架の奥義を知る時、人間のすべての動機が虚しくなり、真の感謝だけが残り、真の献身により実を結ぶ。
ならば/十字架の前で動機のない本当の感謝を回復し、残りの生涯を福音のためにどのように献身するか問いかけよう。
2部:イザヤ 6:13 信者の現住所
なるほど/信者の現住所が御座であることがわかると、自分と現場と世界を御座化することになる。
ならば/目に見える現実に遮断されず、御座に方向合わせ、御座化を祈ろう。